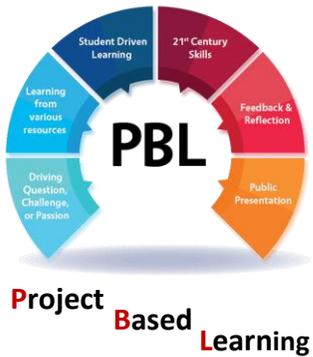


「自ら学び、考え行動できる力の育成」

学習者自らが課題を見つけ、さらに自ら解決する能力を高める学びの場（例・PBL）を提供する。

「PBL (Project Based Learning) 」とは？

プロジェクト型学習／課題解決型学習



PBLは「Project Based Learning」の略で、プロジェクト型学習、課題解決型学習とも呼ばれます。知識の暗記等の子供が受動的な学習ではなく、**自ら問題を発見し解決する能力を養うこと**を目的としています。

従来の授業とは違うの？



教員が教壇に立って板書し、子供がそれをノートに写すという従来の授業とは大きく異なり、**子供が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていくという学習方法**です。

なぜPBLが必要な？

「主体的・対話的で深い学び」の実現



PBLが重要視される背景には、文部科学省が進めている「主体的・対話的で深い学び」があります。従来のような受動的な授業や学習では、情報化社会やグローバル化といった社会的変化のスピードに適應するのが難しいのです。**主体的に判断をする力を身に付けて、多様な社会の中で自分を位置づける力を養う必要があります。**

主体性と汎用的能力の育成



子供が主体的・能動的に学ぶことで、**汎用的な能力が育成**されます。このような能力の育成のために、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループワークなどの学習の形を取り入れていきます。**PBLはこのような教育方法の1つ**です。

どのように取り入れるの？

PBL (プロジェクト型学習) 進め方の例

①問題・課題を発見し、決定する

最初に課題を決めます。課題は提示される場合もあれば、自分たちで見つけることから始める場合もあります。

②どうすれば解決するのかを考える

課題解決に必要な情報を集め、解決の方策を考えて、グループでディスカッションを行います。ここでは課題解決の道筋を明確にしていきます。

③課題の解決に取り組む

個人またはグループで実際に課題の解決に取り組みます。適宜、課題解決に必要な知識や情報を集め、様々な角度から検証します。

④成果をまとめ、振り返りを行う

最後に自分の考えをレポートやスライド等にまとめ、成果を発表します。また、ルーブリック等を活用しながら自らの学びの振り返りを行います。

PBL型授業モデルの構築

総合的な教師力向上のための
調査研究事業実施報告書
《平成28年度 文部科学省委託事業》



個別最適な学びとの関連

指導の個別化

○子供一人一人の実態に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと。

学習の個性化

○子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すること。